

第19回 Motor Control 研究会 プログラム 企業様用

2025年8月20日—22日

NTT 厚木研究開発センター

大会長：木村聡貴（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

実行委員長：安部川直稔（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

プログラム委員

河島則天（国リハ）、武井智彦（玉川大）、吉村奈津江（ScienceTokyo）

共催：NTT コミュニケーション科学基礎研究所

協賛：計測自動制御学会 ライフエンジニアリング部門 生体・生理工学部会

目次

大会長からの挨拶	2
協賛企業.....	3
スケジュール	5
インフォメーション.....	6
一般演題発表者へのご案内.....	8
若手奨励賞・MC19 人気発表賞について	9
会場へのアクセス・施設内マップ	10
ポスター会場レイアウト.....	12
展示ブースの割り当て	13
特別講演.....	14
シンポジウム	15
セレクトトーク	17
フラッシュトーク	17
企業フラッシュトーク	24
大会組織.....	25

大会長からの挨拶

第 19 回 Motor Control 研究会 (MC19) の大会長を仰せつかりました、NTT コミュニケーション科学基礎研究所の木村です。MC19 は、初の企業開催ということで、神奈川の NTT 厚木研究開発センターで行います。

今回の特別講演は、東京大学の中澤公孝先生に「パラリンピックブレインスポーツニューロサイエンスへの扉」というタイトルでご講演いただく予定です。また、企画シンポジウムでは、中澤先生のご講演と共通するテーマとして、「運動制御の多様性とその応用」に焦点をあてた話題を提供いただきます。さらに、公募シンポジウムでは、「自己モデルと社会性」、あるいは「多変量データの解析手法」という、これまでにない切り口から研究をご紹介します。その他、恒例となっているポスター発表+フラッシュプレゼン、セレクトトーク、協賛企業さまからのフラッシュプレゼン+展示コアタイム、そして懇親会なども予定しています。一方、例年の Get Together Party に代わるイベントとして、NTT の取組みをご紹介しますラボツアーも企画しています。

久しぶりの郊外での開催でアクセスがよいわけではないので少々心配でしたが、200 名を超える現地参加登録者、そして 100 件を超える演題登録をいただきました。また、若手奨励賞へのエントリーは 40 件オーバー、セレクトトークの倍率も 2 倍以上となりました。遠方からご参加くださる皆さま、積極的にご発表くださる皆さまに、感謝を申し上げます。

アクセスやセキュリティの都合でご不便やご面倒をおかけする部分があると思いますが、濃密な 3 日間を満喫いただけるよう、関係者一同、努めたいと思います。猛暑の最中ではありますが、皆さまと熱い議論を交わせることを楽しみにお待ちしております。

MC19 大会長

木村聡貴 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

協賛企業

アーカイブティップス株式会社



株式会社フィールドインテクノロジー



株式会社ミュキ技研



インターリハ株式会社



株式会社クリアクト



国立研究開発法人情報通信研究機構





バイオリサーチセンター株式会社



UNIQUE MEDICAL

株式会社ユニークメディカル

 **Tec Gihan Co., Ltd.**

株式会社テック技販



株式会社HELTEC

センシング事業部

株式会社 HELTEC

Physio-Tech

株式会社フィジオテック



3D Incorporated

株式会社スリーディー



NIDEK

株式会社ニデック

ATR-Promotions

株式会社 ATR-Promotions

計測自動制御学会

ライフエンジニアリング部門 生体・生理工学部会

スケジュール

MC19 At-a-Glance

日時	2025/8/20 (水)	2025/8/21 (木)	2025/8/22 (金)
8:00			
8:30		8:30 受付開始	8:30 受付開始
9:00		9:00 - 10:30 公券シンポジウム1	9:00 - 10:00 フラッシュトークB
9:30			
10:00			企業展示・休憩(30分)
10:30		休憩(15分)	10:30 - 13:00 ポスター発表B コアタイム
11:00		10:45 - 11:45 フラッシュトークA	
11:30		11:45 - 13:00 企業フラッシュ 企業展示コアタイム	
12:00			
12:30			
13:00	13:00 受付開始	13:00-14:00 昼食	13:00-14:00 昼食
13:30	13:30 開会式		
14:00	13:45 - 15:15 特別講演 (中澤公孝先生)	14:00 - 16:30 ポスター発表A コアタイム	14:00 - 15:30 公券シンポジウム2
14:30			
15:00	企業展示・休憩(20分)		
15:30			企業展示・休憩(30分)
16:00	15:35 - 17:05 企画シンポジウム		16:00 - 16:30 閉会式
16:30		16:30 - 18:00 セレクトトーク	
17:00	写真撮影(15分) 休憩(10分)		
17:30	17:30 - 19:00 NTTラボツアー	移動(15分)	
18:00			
18:30		18:30 - 20:00 懇親会 @アマンダンヒルズ	
19:00			
19:30			

インフォメーション

受付開始日時

- ・ 8月20日（水）13:00～
- 8月21日（木）8:30～
- 8月22日（金）8:30～
- ・ 場所：NTT 厚木研究開発センター 1号館・1階 プレゼンテーションルーム前室

受付

- ・ 参加証を受け取っていただくことで受付とさせていただきます。
- ランチをお申し込みの方は、下図のようにランチのマークがあります。ご確認ください。



会場について

- ・ 口頭発表会場は、講堂です。
- ポスター発表会場は、会議室1～3（ポスター会場①）またはプレゼンテーションルーム（ポスター会場②）です。
- ・ ロビーなど、NTT社員が来客時の打ち合わせ等で利用することもございます。廊下や階段等での会話はお控えください。ご理解・ご協力をお願いいたします。

セキュリティについて

- ・ セキュリティの都合で、入出場をチェックさせていただきます。移動可能なエリアも制限があります。

撮影について

- ・ 学会期間中、センター内での写真撮影はお控えください。

会場での飲食について

- ・ 飲食はパーティールームでのみ可能です（講堂やポスター会場での飲食はお控えください）
- ・ 昼食時(13:00-14:00)には、地下食堂での飲食が可能です。

コーヒーブレイク

- ・パーティールームにコーヒー、紅茶、ソフトドリンク、茶菓子をご用意しております。
- ・企業ブースでもドリンクをご用意しておりますので是非お立ち寄りください！
(株)ミユキ技研様、インターリハ(株)様、アーカイブティップス(株)様、(株)フィールドインテクノロジー様、(株)クレアクト様、情報通信研究機構様)

昼食について

- ・ランチを申し込まれた方は、13:00-14:00 の昼食時間に建物内 B1F 食堂にてランチを提供いたします。NTT スタッフの誘導に従ってご移動をお願いします。食堂では参加証をご提示ください。
- ・ご持参いただいた昼食を食堂でとっていただいても構いません。
- ・会場内は食事不可ですが、パーティールーム（コーヒーブレイクの会場）においてのみ、お食事が可能です。ただし、スペースが限られておりますのでご了承ください。

クローク

- ・TV 会議室 4 をクロークとしてご利用いただけます。施錠はしません。常駐のスタッフもいませんので、貴重品は預けないようお願いいたします。

喫煙

- ・構内は禁煙となっております（喫煙場所は MAP をご参照ください）。

WiFi 接続について

- ・会場内では、NTT が提供する無線インターネット接続（Wi-Fi）が使用できます。SSID とパスワードは以下の通りです。

SSID : Motor_Control2025

パスワード : MC19@NTT

※SSID・パスワードは研究会参加者限定です。第三者への共有は固くお断りいたします。

ゴミの回収について

- ・会場にゴミ箱の設置はございません。ゴミは各自でお持ち帰りください。

一般演題発表者へのご案内

発表について

- ・ 一般演題発表者には、口演（フラッシュトークもしくはセレクトトーク）とポスター発表の両方を行っていただきます。
- ・ 口演、ポスター発表とも現地発表（オンサイト発表）を行っていただきます。

フラッシュトーク

- ・ 使用言語：日本語または英語とします。
- ・ 発表時間：**50 秒厳守**
- ・ 事前に提出いただいた PDF ファイル（横縦比 4:3、2 ページ迄）を使ってご説明ください。
- ・ 質疑応答は設けません。各ポスターでご討論ください。

セレクトトーク

- ・ 使用言語：日本語または英語とします。
- ・ 発表時間：17 分（発表 12 分、質疑応答 5 分）。
- ・ 発表資料は当日までに準備し、ご自身の PC を用いてご説明ください（HDMI 接続がご使用になれます）。
- ・ 更なる討論はポスターで行ってください。

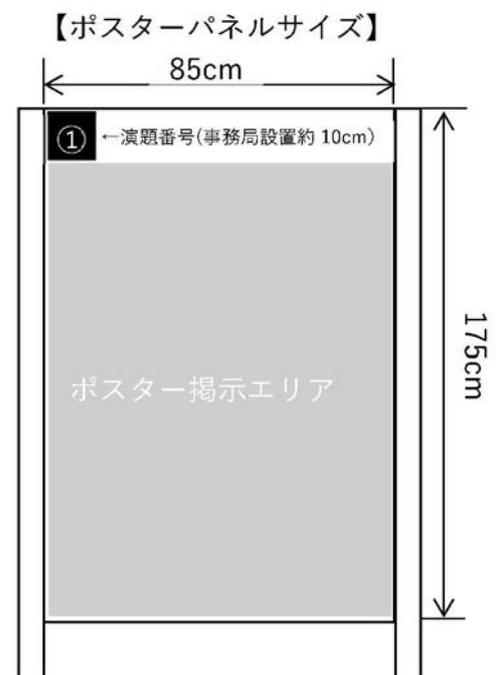
ポスター発表

- ・ 使用言語：日本語または英語。日本語で作成する場合も、演題名、発表者名、所属、図のタイトルは英語併記を原則とします。
- ・ パネルサイズ：幅 85cm × 高さ 175cm（図参照）
- ・ 演題番号に従って、コアタイムを設けます。

・フラッシュトーク A は、二日目 8:10-9:00 に貼り付け、懇親会開始前までに撤収をお願いいたします。

・フラッシュトーク B は、三日目 8:10-9:00 に貼り付け、ポスター発表 B コアタイム終了後、速やかに撤収をお願いいたします。

・セレクトトークは、二日目 8:10-9:00 に貼り付け、原則として会期中通してご掲示ください。ポスター発表 B コアタイム終了後、速やかに撤収をお願いいたします。



若手奨励賞・MC19 人気発表賞について

若手奨励賞

1. 目的

運動制御研究を担う優秀な若手研究者の研究を奨励し、Motor Control 研究会をより活性化するために本賞（Motor Control 研究会若手奨励賞）を設けます。

2. 対象

博士学位取得前もしくは博士学位取得後 5 年以内までの研究者が筆頭著者として発表する一般演題。なお過去に本賞の受賞経験のある者、非会員の発表者は審査の対象としません。

3. 受賞件数

五件程度

4. 表彰

表彰は研究会閉会式で行います。受賞者には賞状と副賞を贈呈します。

受賞者の氏名と演題は、Motor Control 研究会のホームページ上で公開します。

受賞者には、冬の学校で受賞記念講演をしていただく予定です。

5. 選考方法

若手奨励賞選考委員会が、あらかじめ提出された審査用書類、およびフラッシュトークプレゼンテーション、ポスター発表を総合的に評価の上、厳正に審査・選出します。

MC19 人気発表賞

1. 目的

研究歴を問わず、優れた研究を評価する場を提供することで、年次大会の発表を活性化することを目的とします。また、参加者全員による投票とすることで、大会へのより積極的な参加を促します。

2. 対象

シンポジウムを含むすべての一般演題

3. 受賞件数

五件程度。なお、若手奨励賞とのダブル受賞も可能です。

4. 表彰

表彰は研究会閉会式で行います。受賞者には賞状を贈呈します。また受賞者の氏名と演題は、Motor Control 研究会のホームページ上で公開します。

5. 選考方法

三日目のシンポジウム終了までに、参加者全員に投票していただきます。

参加者一人につき、五件まで投票可能。

6. 投票基準

知り合いや著名な研究者に投票するという基準ではなく、当大会での発表内容が運動制御科学の発展に貢献するものであったかをご自身で判断して投票してください。優れた研究を見極める力を養うことも大会の大きな目的の一つです。

会場へのアクセス・施設内マップ



NTT 厚木研究開発センターへのアクセス

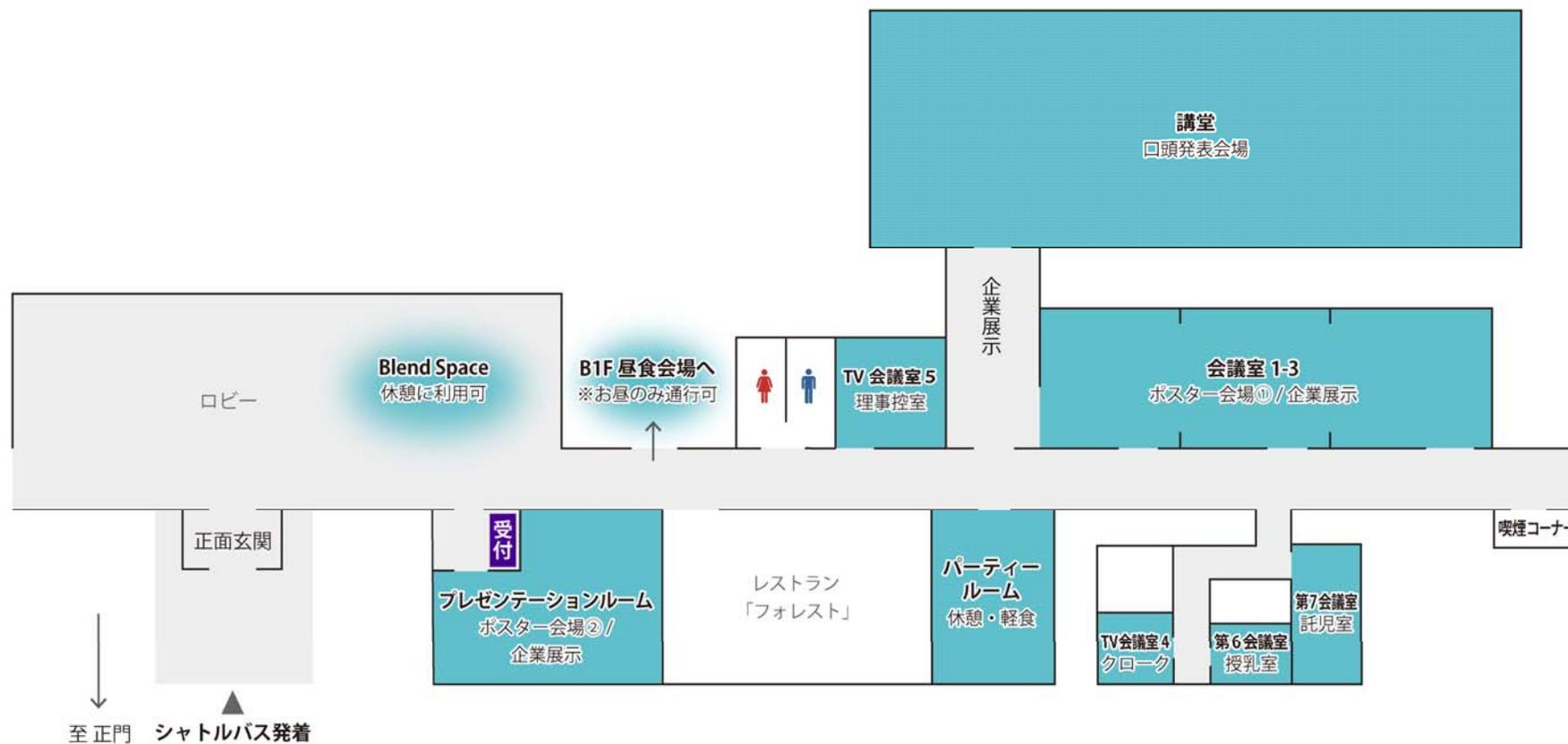
<https://www.rd.ntt/organization/access/atsugi.html>

※ 本厚木駅からの公共バスは時間帯により本数が非常に少ないため、公共バスをご利用の方は「愛甲石田駅」からのバス利用を推奨いたします。

シャトルバスでのご来場・ご退出：NTT 構内の乗降場所は、会場となる 1 号館付近です。ご乗車の際、係員にお名前をお伝えください。本厚木駅での乗降は、P18 以降をご参照ください。

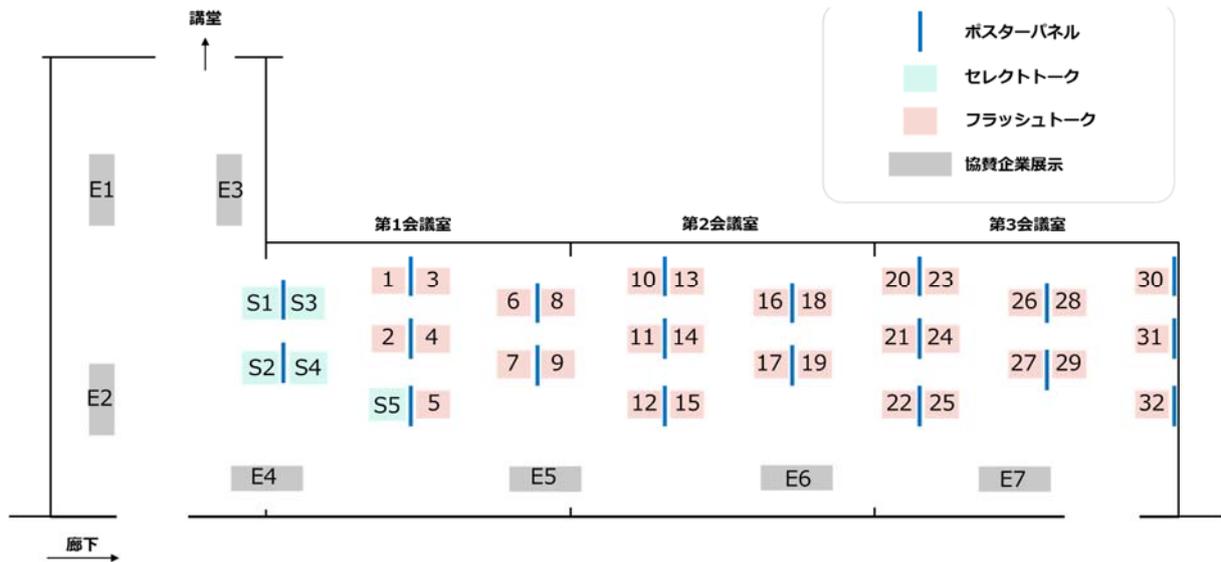
シャトルバス以外でご来場・ご退出される場合：セキュリティの都合上、入退出手続きが必要です。施設入口の守衛室にて、「Motor Control 研究会参加」の旨をお伝えいただき、参加者リストへのチェックをお願いします。リストは各日程の終了時に確認し、チェック漏れがある場合は Slack などでご連絡させていただくことがございます。

会場内マップ

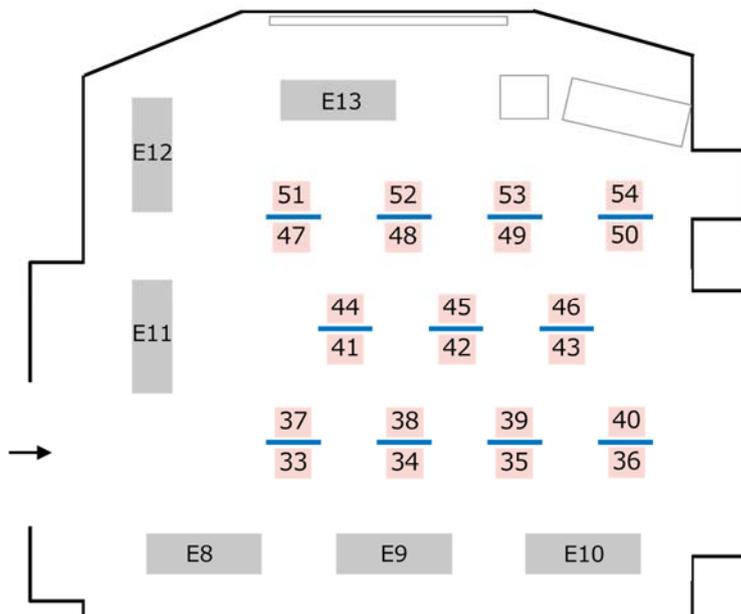


ポスター会場レイアウト

ポスター会場① - 会議室 1-3



ポスター会場② - プレゼンテーションルーム



展示ブースの割り当て

	協賛企業等
E1	株式会社ミュキ技研
E2	インターリハ株式会社
E3	アーカイブティップス株式会社
E4	株式会社フィールドインテクノロジー
E5	株式会社クレアクト
E6	国立研究開発法人情報通信研究機構
E7	株式会社HELTEC
E8	株式会社ユニークメディカル
E9	株式会社テック技販
E10	株式会社スリーディー
E11	株式会社フィジオテック
E12	バイオリサーチセンター株式会社
E13	株式会社ニデック

・企業ブース E1～E6 でもドリンクをご用意しておりますので是非お立ち寄りください！

(株)ミュキ技研様、インターリハ(株)様、アーカイブティップス(株)様、(株)フィールドインテクノロジー様、(株)クレアクト様、情報通信研究機構様)

特別講演

日時：8/20（水）13:45～15:15 座長：木村 聡貴

「パラリンピックブレイン ー スポーツニューロサイエンスへの扉ー」

中澤 公孝 先生

東京大学大学院総合文化研究科 教授

略歴：

1991年東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士（教育）。同年、国立障害者リハビリテーションセンター研究所運動機能系障害研究部研究員。

1998年同研究部神経筋機能障害研究室室長、2007年同研究部部長。チューリッヒ大学附属バルグリスト病院研究所客員研究員、鹿屋体育大学併任助教授、東京大学教育学研究科併任助教授などを経て、2009年より現職。

2020年～2023年東京大学スポーツ先端科学連携研究機構機構長を兼任。



専門は、身体運動の神経科学、神経リハビリテーション科学、運動生理学。

JST 未来社会創造事業「内受容感覚の解読と制御によるメンタル調整技術」研究代表（2020年～2023年）。

日本バイオメカニクス学会賞（松井賞）など受賞多数。

著者に「パラリンピックブレイン（2021年）」や「歩行のニューロリハビリテーション：歩行再獲得のための理論と臨床（2019年）」など。

シンポジウム

企画シンポジウム 日時：8/20（水）15:35～17:05

「運動制御のダイバーシティを活かした実環境応用」

オーガナイザー：木村聡貴（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

シンポジスト

1. 櫻田武（成蹊大学）
「認知・心理的個人性の理解に根差した運動制御の最適化とその応用可能性」
2. 大住倫弘（畿央大学）
「幻肢痛の多様性に応じて最適化するリハビリテーション」
3. 古屋晋一（Sony CSL）
「スキルの限界の個人性を考慮に入れた最適なトレーニング・パイプラインのデザイン」

近年、脳や神経に由来する様々な個人特性の違いを多様性として相互に尊重しよう、とする Neurodiversity（神経多様性）の考え方が浸透してきている。運動制御の分野でも、一般的な（共通的な）脳神経メカニズムの理解がすすむ一方で、個人や経験に応じた特性の違いや可塑的な変容についての証左が様々に蓄積され、実環境で活用する取組みがすすんでいる。本シンポジウムでは、運動-注意の機能連関から見た個人性評価と訓練（櫻田氏）、幻肢痛の多様性に基づくリハビリテーション（大住氏）、個人性を踏まえたスキルの限界突破デザイン（古屋氏）といった視座から話題を提供いただき、運動制御のダイバーシティをどのように捉え、そして実環境に活かしてゆけるか、を考える機会としたい。

公募シンポジウム 1 日時：8/21（木）9:00～10:30

「自己モデルのゆらぎと社会性」

オーガナイザー：戸松彩花（生理学研究所）

シンポジスト

1. 井澤淳（筑波大学）
「内部モデルと自己身体意識」
2. 大畑龍（産業技術総合研究所）
「身体錯覚を用いて迫る自己モデルと感情のつながり」
3. 田中拓海（東京大学）
「運動主体感の形成プロセスから考える自他境界の基盤」
4. 長谷川晶一（東京科学大学）
「メタバースでの触れあいと C 触覚繊維を含む感情的触覚の関係について」

自己に関する内部モデル（以後「自己モデル」）には、運動生成以外にも重要な役割がある。それは、自己と他者の区別、および自他の共通点を見出し共感することを土台とした「社会」の構築である。運動主体感、身体所有感、集団帰属感などの生成のベースは自己モデルにあり、自己モデルのゆらぎは自他区別や同種判断に直接影響して、他者とのコミュニケーションを変化させるだろう。

自己モデルの形成と修正には様々な感覚情報の入力がかかせないと考えられているが、急激に進歩するデジタル社会の中で、我々の自己モデルは新展開のゆらぎを経験している。本シンポジウムでは、自己モデルと共感の関連性、VR 空間を用いた実験パラダイムを通じて新たに見える自己モデルの特徴を論じる。

公募シンポジウム 2 日時：8/22（金）14:00～15:30

「多変量データを紐解く解析手法」

オーガナイザー：瀧山健（東京農工大学）

シンポジスト

1. 瀧山健（東京農工大学）

「テンソル分解にもとづく筋シナジー解析」

2. 宮下恵（東京農工大学）

「テンソル分解と動的グラフ推定に基づく EEG データ解析」

3. 鹿内友美（昭和医科大学）

「ネットワーク制御理論による脳波応答解析：身体状態に応じた制御特性の定量化」

本シンポジウムでは筋活動ならびに脳活動を始めとする多変量データの解析に向け、テンソル分解やグラフ理論、ネットワーク制御理論にもとづく新たな解析手法とその応用例を紹介する。特に、身体運動科学における従来手法では定量化が困難である対象に関して、より効果的な解析が期待できる種々の手法の紹介を目的とする。

第一に、瀧山がテンソル分解を用いた動作ならびに筋電解析について紹介する。テンソル分解とは、3 要因のデータに適した解析手法であり、多くの研究が注目する 3 要因、すなわち①筋もしくは関節、②時間、③その他の要因(学習、個人差、実験設定)、を解析し、多変量の時系列データが、3 要因目に応じた調整パターンの抽出を可能とする。第二に、宮下がテンソル分解とグラフ理論に基づくデータ解析手法を紹介する。テンソル分解により複数抽出される要素は、互いの関係性は多くの場合明らかでない。その要素間の関係性の抽出も可能とする、テンソル分解とグラフ理論の包括的な解析手法について紹介する。第三に、鹿内がネットワーク制御理論に基づく解析手法を紹介する。様々な状態(開眼、閉眼、運動)における脳波を解析し、可制御性という新たな視点により状態の違いを定量化できることを示す。特に、脳波-経頭蓋磁気刺激法に応用した例を示す。

セレクトトーク

セレクトトーク 日時：8/21（木）16:30～18:00

座長：横井惇(情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)

(各発表 12 分 + 質疑応答 5 分)[ポスター発表 8 月 21 日、及び 22 日]

[S1]池上 剛 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)

「視覚障がい者における聴覚運動学習の汎化」

[S2]杉野 広堯 (慶應義塾大学大学院)

「課題要求に応じた最速フィードバック制御への皮質下運動経路の機能的関与」

[S3]林 拓志 (東京大学)

「一試行の運動適応が手の位置知覚を動的に変える」

[S4]牧野 勇登 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)

「運動記憶は計画された運動内の位相に応じて符号化される」

[S5]小杉 亮人 (国立精神・神経医療研究センター)

「光遺伝学操作によって誘発される脊髄反射由来の運動誤差への適応」

フラッシュトーク

フラッシュトーク A 日時：8/21（木）10:45～11:45

司会：杉野 広堯 (慶應義塾大学大学院) (各発表 50 秒) [ポスター発表 8 月 21 日]

(若) =若手奨励賞審査対象発表

[A1]佐藤 大輔 (筑波大学)

「技能定着局面における意図的な反応抑制と運動記憶との関連性」

[A2]山崎 稜一郎 (慶應義塾大学) (若)

「前庭感覚入力の時間的特性が聴覚リズムに対する同期運動のために参照される」

[A3]原 基 (東京大学大学院)

「視覚運動マッピングが乱れた環境下への運動適応が誘発する神経可塑的变化」

[A4]東井 飛雅 (東京農工大学) (若)

「EMG と fMRI の同時計測による上肢筋シナジーの皮質表現」

[A5]藤巻 達郎 (慶應義塾大学)

「誤情報を含むニューロフィードバックは反応時間を遅延させる」

[A6]村松 光太郎 (東京大学大学院) (若)

「歩行リズム誘発時の脊髄ニューロン群の多電極同時記録」

[A7]進藤 真人 (NTT 人間情報研究所)

「足関節への筋電気刺激による姿勢バランス練習が感覚依存性と姿勢制御戦略に与える影響」

[A8]桶川 大志 (東京大学) (若)

「シータバースト刺激による補足運動野の活動促進は努力度の知覚を変調させる」

- [A9] 棚橋 龍二郎 (中部大学)
「自由遊泳中の金魚が獲得する周期的視運動刺激に対する予測性姿勢制御」
- [A10] 秤谷 名鷹 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所) (若)
「頸髄損傷者の脳構造可塑的変化の解明」
- [A11] 梅崎 恭平 (東京大学大学院)
「ダーツ投擲課題を用いた生体情報の同時計測と PPR 効果の検証」
- [A12] 釜田 亜来亜 (筑波大学大学院) (若)
「随意呼吸制御におけるサルブローカ野相同領域の役割」
- [A13] 佐藤 悠樹 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)
「外骨格ロボットによる両側手指同調運動が受動運動側の筋活動に及ぼす影響と経頭蓋磁気刺激を用いた神経メカニズムの解明」
- [A14] 大島 惇史 (東京大学) (若)
「ヒトの歩行適応過程における脳領域間の因果的結合の変化」
- [A15] 曾我 祐太 (電気通信大学) (若)
「脊髄神経細胞群の多チャンネル同時記録による後肢の姿勢の表現様式の解明」
- [A16] 増本 貴大 (慶応義塾大学)
「ゴム手錯視中における身体所有感と脳領域間信号伝達の個人差」
- [A17] 関 碧生 (慶応義塾大学) (若)
「感覚運動リズムの位相に依存した反応メカニズム」
- [A18] 桐本 光 (広島大学大学院)
「AI ロボットと迷走神経刺激によるデュアル・クローズドループ型訓練は難解な手指分離運動“グワシ”の獲得を促通する」
- [A19] 益城 優芽 (東京大学大学院)
「情動記憶の想起が脊髄運動ニューロンの興奮性に及ぼす影響」
- [A20] 中川 剣人 (上武大学)
「経皮的迷走神経刺激が運動学習および一次運動野可塑性に及ぼす影響」
- [A21] 澤井 舜 (京都橘大学大学院) (若)
「利き手と非利き手における手指巧緻運動時の Mirror activity と皮質筋コヒーレンスの関連」
- [A22] 水口 智仁 (玉川大学) (若)
「到達運動時の固有感覚フィードバックを操作する仮想リーチング課題の開発」
- [A23] 水口 暢章 (順天堂大学)
「運動記憶定着の個人性に関連する脳内ネットワーク」
- [A24] 平田 貴士 (名古屋大学) (若)
「視覚情報遮断時に逸れる歩行軌道と左右非対称な前庭動眼反射」
- [A25] 河合 怜緒 (京都大学大学院) (若)
「熟練ピアニストの演奏は姿勢制御戦略によって左右されるか？」
- [A26] 水野 純平 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)
「身体知覚の形成におけるセルフタッチの役割」
- [A27] 岡田 征剛 (東京大学大学院)
「衝撃力を伴う運動における内的及び外的な予測が知覚と運動に及ぼす影響」

- [A28]相羽 裕子 (航空自衛隊)
「悪視程が航空機の操縦に及ぼす影響」
- [A29]荻野 紗綾 (筑波大学) (若)
「捕球に先立つ視線制御における熟練度差の検討」
- [A30]彦坂 幹斗 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
「車いすラグビー選手における競技用車いす駆動パターンの検証」
- [A31]森山 真衣 (京都大学大学院) (若)
「暗黙的に学習される下肢到達運動における予測的姿勢制御の適応過程」
- [A32]神原 裕行 (東京工芸大学)
「力覚情報の有無が VR 空間から実空間への運動スキルの転移に与える影響」
- [A33]草深 あやね (早稲田大学) (若)
「自身の運動に関するフィードバックが運動能力の限界を変える」
- [A34]進矢 正宏 (広島大学)
「MLB 球審の意思決定バイアスの一部はベイズ感覚統合により説明できる」
- [A35]張 云山 (京都大学) (若)
「物体の大きさ感覚経験はそのあとの運動出力に影響を及ぼさない」
- [A36]武田 賢太 (日本医療大学)
「神経疾患症例における立位姿勢制御の特徴分析 一足圧中心・関節角度・筋活動データを用いた包括的多変量分析一」
- [A37]財津 吉輝 (慶應義塾大学大学院)
「左右肢を動かす時間関係を文脈とした両腕運動学習の選択的記憶」
- [A38]村井 亮介 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター) (若)
「VR 環境そのものへの運動適応：視覚フィードバックの違いによる影響」
- [A39]西澤 和 (大阪大学大学院)
「片脚着地動作において標的位置の不確実性が身体進行方向に与える影響」
- [A40]斎藤 淳基 (筑波大学院) (若)
「サッカーのスキヤニングにおける頭部-眼球協調の構造的特徴」
- [A41]河野 友哉 (京都大学) (若)
「冗長性を有する新規運動の学習における協調的制御の獲得過程」
- [A42]山田 燎 (東京大学大学院)
「運動中の固有受容誤差に対する瞳孔径応答と誤差認識」
- [A43]鈴木 星 (静岡大学大学院)
「タイミング行動における補足運動を利用した複数の事前分布の学び分けの促進：VR バッテイングシステムを用いたスポーツへの応用可能性の検証」
- [A44]松本 健太 (慶應義塾大学大学院) (若)
「ワーキングメモリ負荷増大による記憶情報の潜在化と周期的再活性化は反応時間に現れる」
- [A45]西野 葵 (神戸大学大学院) (若)
「小趾外転筋に焦点を当てたタオルギャザーエクササイズと神経筋電気刺激の併用が立位バランスに及ぼす影響」

[A46]立石 貴樹 (畿央大学大学院)

「脳卒中歩行非対称性パターンに着目した Split-belt 歩行中における筋シナジー変化の検討:
異なるベルト 2 条件の比較」

[A47]加藤 辰弥 (ソニーコンピュータサイエンス研究所) (若)

「ピアニストにおける半球間体性感覚情報処理の対称性」

[A48]秦 一真(広島大学大学院)

「立位時の単峰性および二峰性の等尺性上肢力発揮課題に対する足関節トルクの姿勢制御活動」

[A49]大西 空(畿央大学)

「部分情報分解を用いた歩行制御における筋間の協調機構の解明 - 予備的研究 -」

[A50]武見 充晃 (広島大学)

「Robotic TMS: A Fully Automated Platform for Human Brain Mapping and Modulation」

[A51]市村 大輔 (産業技術総合研究所)

「すくみ足緩和に向けた神経筋骨格モデルの歩行シミュレーション」

[A52]出利葉 拓也 (慶應義塾大学)

「脳の信号伝達を直接可視化する Gamma burst-related potentials (GBRP) の開発」

[A53]太田 憲 (スキルヴィズ)

「全身の力学によって拘束される投球のリリースタイミングと投球分布」

[A54]野村 泰伸 (京都大学)

「自動的運動意思決定の皮質・基底核ループ動態モデル: 運動指令発出・停止タイミングの決定機序と運動ゆらぎの関係」

フラッシュトーク B 日時: 8/22 (金) 9:00~10:00

司会: 彦坂 幹斗 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

(各発表 50 秒) [ポスター発表 8 月 22 日]

(若) =若手奨励賞審査対象発表

[B1]尾崎 文音(新潟大学)

「筋-脊髄インターフェイスを介した律動性下肢運動パターンの非侵襲的制御」

[B2]岩本 憲宏(東京都医学総合研究所) (若)

「筋疲労下の運動出力維持に寄与する一次運動野ニューロンの疲労耐性メカニズム」

[B3]佐藤 慶之(東京農工大学)

「網様体脊髄路に対する非侵襲的干渉波電気刺激によるニューロモジュレーション」

[B4]寺澤 雄太(畿央大学大学院)

「定常歩行における再発定量分析を用いたパーキンソン病患者の歩行分析」

[B5]三輪 春奈(筑波大学大学院) (若)

「運動機能を向上させる予期的な呼吸制御」

[B6]山中 都史美(中部大学)

「秒単位の視覚刺激方向切り替わりタイミングの学習と予測的眼球運動の生成における小脳と脳幹 Area II の役割」

- [B7]瀬理 大我(慶應義塾大学大学院) (若)
「聴性誘発電位を指標とした仮想空間における歩行中の運動主体感の評価」
- [B8]伊藤 実央(埼玉県立大学大学院)
「脳卒中者における麻痺筋への物理的介入後の神経筋機構と運動麻痺への影響」
- [B9]稲垣 慧(東京工業大学)
「安静時脳波を用いた高齢者の片足立位に関連する脳機能結合の検討」
- [B10]高橋 碧希 (青森県立保健大学大学院)
「巧緻的な発揮筋力調節課題の学習は感覚運動野の α および β ERD を増強する」
- [B11]朝比奈 昂洋(情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)
「高密度質脳波電極と Transformer によるリアルタイムカーソル制御と attention 解析」
- [B12]佐々木 睦 (東京大学) (若)
「Brain-computer interface (BCI) 駆動型の脊髄硬膜外刺激を用いた介入が頸髄損傷者の上肢運動機能と神経可塑性に及ぼす影響」
- [B13]後藤 卓(慶應義塾大学)
「終点のばらつきに着目した、ヒト三次元到達運動における重力利用の検討」
- [B14]今野 聖大 (筑波大学) (若)
「準備的姿勢調節がダイナミックな動作切り替えに及ぼす影響」
- [B15]石橋 遼 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)
「運動レパトリーは運動学習の文脈として機能する」
- [B16]伊藤 ゆうき (早稲田大学) (若)
「急速視覚運動反応課題を用いた半側空間無視の運動修正特性」
- [B17]河島 則天 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
「障害歩行の特徴分析 - 追尾型歩行計測システムによって得た各種歩行障害データの集約解析 -」
- [B18]松村 聖司 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)
「試技前の生理状態は競技パフォーマンスに影響するか? : 熟練スノーボーダーの実競技計測」
- [B19]伊藤 貴紀 (埼玉県立大学大学院)
「外骨格による仮想靭帯拘束への手指運動適応」
- [B20]森 大輝(東京大学) (若)
「眼球計測から読み解く手指動作による新奇視覚運動写像の獲得過程」
- [B21]三枝 徹平 (筑波大学大学院) (若)
「ステップ反応における呈示比率の偏りとフェイントの有無が判断に与える影響」
- [B22]大畑 龍(産業技術総合研究所)
「自分の声を聞くことで事後的に形作られる行為主体感」
- [B23]能代 時矢 (筑波大学) (若)
「予測的筋活動が急停止動作における加速度に及ぼす影響」
- [B24]中川 晃(京都大学大学院)
「新奇な外力負荷環境下での歩行適応における筋活動の協調的修正」
- [B25]青木 良輔 (NTT 人間情報研究所)
「静的立位時の感覚特性検査による感覚依存性パターンと特異な運動特性の抽出」

- [B26]末満 堅人 (長岡技術科学大学) (若)
「電気筋刺激を用いた受動運動における誤差処理は後期正成分に反映される」
- [B27]鈴木 紳之介(東北大学大学院) (若)
「指先摩擦条件が投球パフォーマンスおよび上肢運動制御に及ぼす影響と適応戦略」
- [B28]小笠 希将 (名古屋大学)
「プレッシャーが知覚-運動制御にもたらす影響」
- [B29]木島 章文 (山梨大学)
「子どもの3人組における対称性の破れと協調行為のパターン」
- [B30]WU WEI-PO(東京大学) (若)
「Directional cues shift sensory prediction toward the perturbation: An alternative mechanism for reducing prediction error?」
- [B31] 高田一真 (沖縄科学技術大学院大学、ソニーコンピュータサイエンス研究所)、谷口 創太郎 (早稲田大学)
「協調課題におけるオンライン運動調整と操作感の調査」
- [B32]松田 直祥 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター) (若)
「終わりよければ全てよし：パサーの誤差修正はシューターの結果に依存する」
- [B33]千田 直輝 (慶應義塾大学)
「運動パフォーマンスに対する報酬・難易度・覚醒度の相互作用」
- [B34]中里 りく (早稲田大学) (若)
「ボールスポーツを模した二次元キャッチ課題におけるタイミングと位置の決定」
- [B35]小林 真子 (東京大学)
「バランスボール揺動課題を用いた動的バランスの制御・学習メカニズムの解明」
- [B36]永井 美和 (NTT 人間情報研究所)
「EMG 操作インタフェース使用時における intentional binding を用いた暗示的な運動主体感の評価」
- [B37]女川 亮司 (東京大学)
「周辺環境に応じた柔軟な運動適応」
- [B38]上野 壮士朗(筑波大学大学院) (若)
「対象者固有の投球分散がインセンティブの伴う投球課題時の分散に与える影響と心理特性との関連」
- [B39]Gurgone Sergio(情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)
「Integration of motor memories in egocentric and allocentric coordinates」
- [B40]高野 詩菜 (大阪大学大学院)
「意思決定の不確実性に最適化された運動記憶の形成」
- [B41]橋浦 健太 (東京大学)
「融合身体が新奇の運動課題の学習過程に与える影響」
- [B42]小林 稔季 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)
「複数人による協調的運動における冗長性分析のための実験系開発」
- [B43]福西 彬仁 (東北大学) (若)
「Learning of musculoskeletal control under sensorimotor perturbation by model-free process」

[B44]下門 榛希 (京都大学)

「仮想スティックバランス課題における間欠的制御戦略のベイズ型データ同化に基づく定量評価」

[B45]若林 汰(西大和リハビリテーション病院) (若)

「再帰定量化分析による姿勢ゆらぎの定量的評価」

[B46]松井 一喜 (京都大学)

「姿勢動揺時系列に基づく健常高齢者・パーキンソン病患者の立位姿勢デジタルツイン構築」

[B47]深川 ヒカル(東京工芸大学)

「表面筋電信号を用いた指文字認識」

[B48]和木 優空 (東京農工大学) (若)

「Koopman operator とモデル予測制御による運動制御・運動学習の包括的再現」

[B49]福田 紀生 (情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)

「DefMuscle による被験者個別シミュレーションの精度検証とモーメントアームの個人差解析」

[B50]野尻 夏暉 (高知工科大学大学院) (若)

「深層学習による技能獲得前の骨格時系列データに基づく運動学習能力の推定」

[B51]安田 玲(電気通信大学大学院)

「fMRI 対応バーチャル身体拡張システムの構築と主観評価実験」

[B52]北原 俊一 (十文字学園女子大学)

「ブランコ座面上の慣性力が漕ぎ手の上体運動に与える影響」

[B53]松田 萌愛 (山口大学) (若)

「高次化された感覚情報を活用して運動軌道を生成する学習制御モデル」

[B54]犬走 渚(立命館大学)

「冗長な手足同時到達課題における誤差修正の分配戦略」

企業フラッシュトーク

日時：8/21（木） 11:45～12:15 司会：木村聡貴（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
[企業展示コアタイム 8月21日 12:15～13:00]

- [1] 株式会社フィールドインテクノロジー
- [2] アーカイブティップス株式会社
- [3] インターリハ株式会社
- [4] 株式会社ミュキ技研
- [5] 株式会社クレアクト
- [6] 国立研究開発法人情報通信研究機構
- [7] バイオリサーチセンター株式会社
- [8] 株式会社ユニークメディカル
- [9] 株式会社テック技販
- [10] 株式会社 HELTEC
- [11] 株式会社フィジオテック
- [12] 株式会社スリーディー
- [13] 株式会社ニデック

大会組織

大会長	木村聡貴（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
実行委員長	安部川直稔（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
実行委員副委員長	伊藤翔（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
プログラム委員	河島則天（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）
プログラム委員	武井智彦（玉川大学）
プログラム委員	吉村奈津江（東京科学大学）
共催	NTT コミュニケーション科学基礎研究所
実行委員	上田大志（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
実行委員	高木敦士（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
実行委員	松村聖司（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）
事務局	三村京子（国立精神・神経医療研究センター神経研究所）
事務局	宮本絵美（国立精神・神経医療研究センター神経研究所）
事務局	大谷暢子（国立精神・神経医療研究センター神経研究所）